

## 「多くの国民の父」

2018年09月10日

ローマの信徒への手紙 4章13節～18節 神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。律法に頼る者が世界を受け継ぐのであれば、信仰はもはや無意味であり、約束は廃止されたこととなります。実に、律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違犯もありません。従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。彼はわたしたちすべての父です。「わたしはあなたを多くの民の父と定めた」と書いてあるとおりに。死者に命を与え、存在していないもの呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父となったのです。彼は希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ、「あなたの子孫はこのようになる」と言われていたとおりに、多くの民の父となりました。

パウロは、割礼を受けたユダヤ人であれ、割礼を受けていない異邦人であれ、誰でも信仰によって神の義に与ることができると語った。それは、神との契約の徴である割礼が制定される前に、アブラハムは信仰を認められ義とされたからであると言っている。次にパウロは、「神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです」と続けている。これらの言葉から、ファリサイ派の学徒として、割礼と律法を至上の価値と思っていたパウロの心の中で大転換が起こったことが分かる。フィリピ書2章7節、8節で、「しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています」と書いているように、キリストの福音を知ってから、価値観が一変している。福音の真理がパウロにこの世の法則に縛られない自由を与えたのである。

そして、この転換の意味を下記のように展開している。律法に頼る者が世界を受け継ぐのであれば、信仰はもはや無意味であり、約束は廃止されたことになる。律法は怒り、罰を招くものである。しかし、律法がなければ違犯もない。律法の有無ではなく、信仰によってのみ世界を受け継ぐ者となる。従って、アブラハムの全ての子孫、つまり、律法に頼るユダヤ人だけでなく、彼の信仰に従う異邦人も、恵みによって確実に世界を受け継ぐ約束に与れる。アブラハムは、ユダヤ人と異邦人の違いを越え、創世記17章4節に「わたしはあなたを多くの民の父と定めた」と書いてある通り、私たち全ての父となった。アブラハムは、死者に命を与え、存在していないもの呼び出して存在させる全能の神を信じた。また、希望を持ち得ない時にも、なおも望みを抱いて信じた。その信仰によって、「あなたの子孫はこのようになる」と言われていた通りに、多くの民の父となったのである。

信仰によって義とされたアブラハムはユダヤ人の父であるだけでなく、民族の壁を越え、全ての民族の父となったと、キリストの福音は世界的な出来事であるとパウロは説き明かしている。信仰の真実と力を知るパウロは、目に見える割礼や律法は限定されるが、目に見えない信仰は無限の広がりと可能性を持つことを深く認識していたのである。